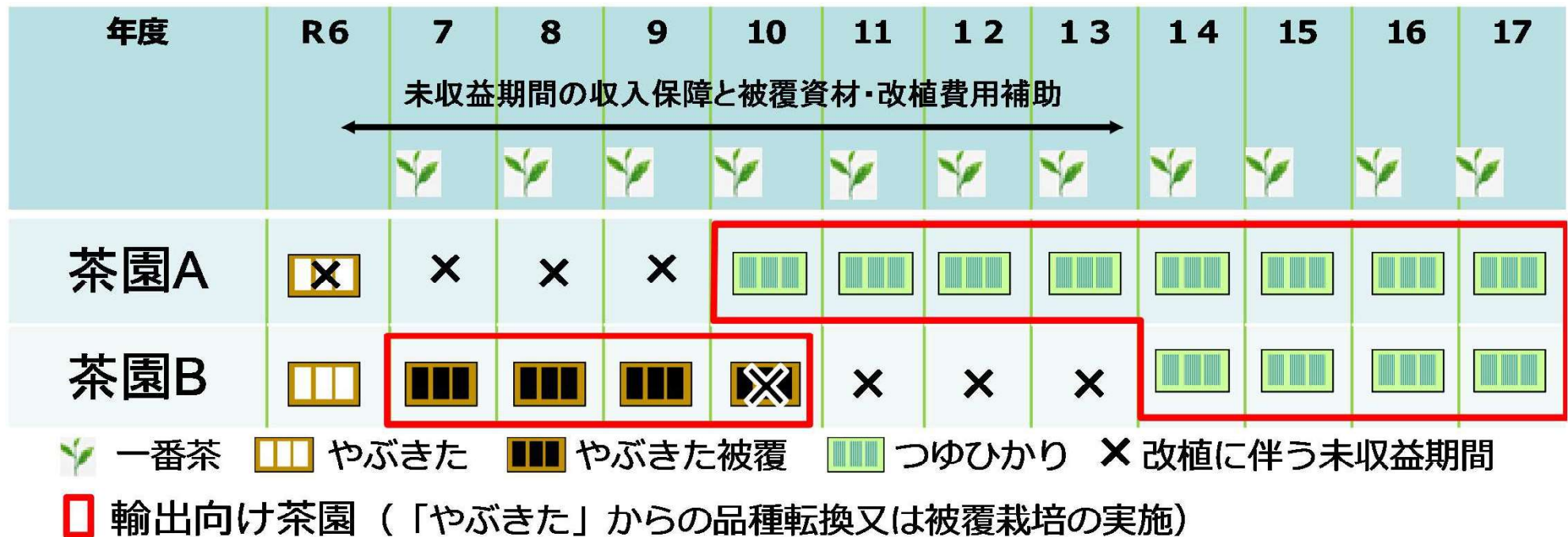


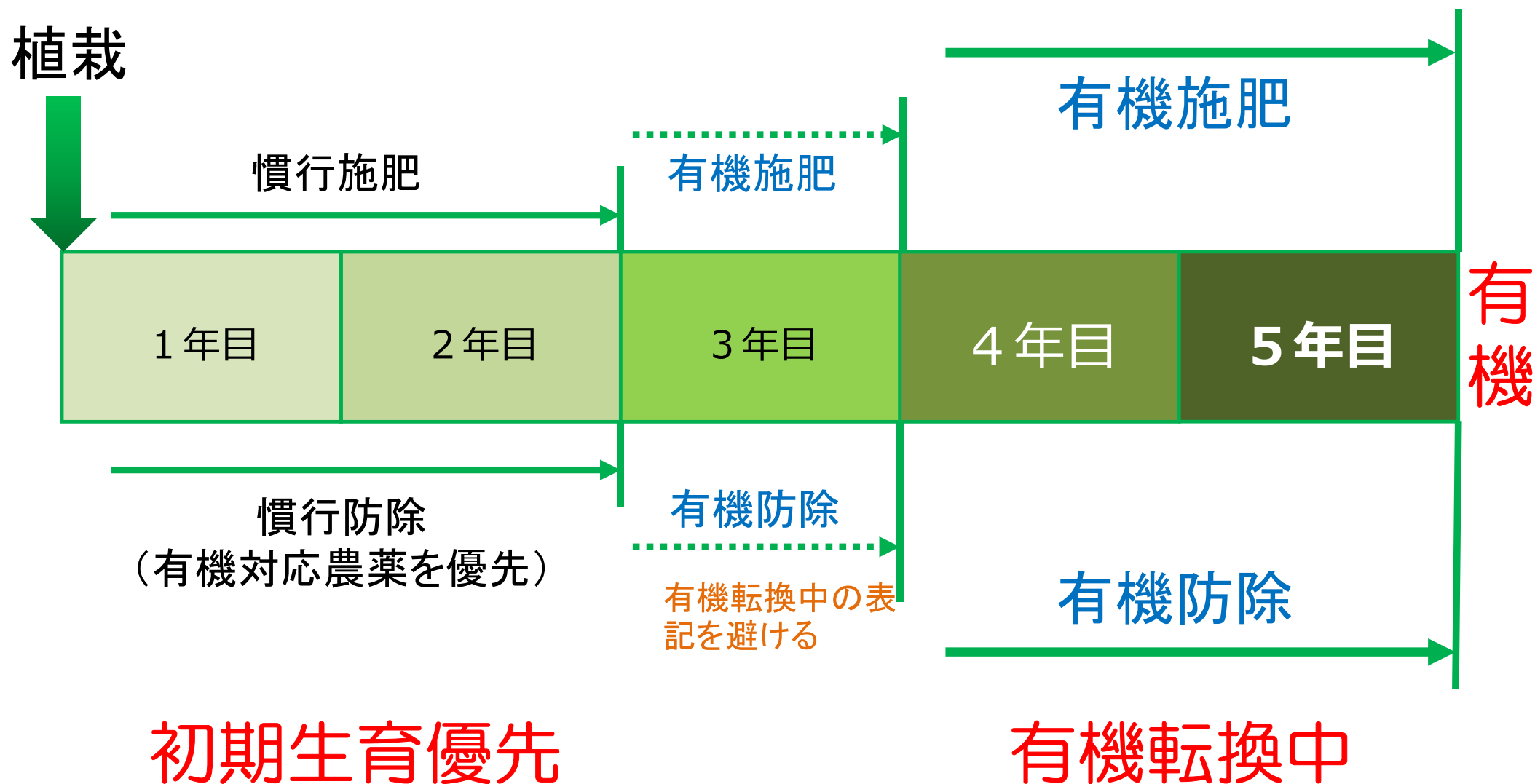
やぶきたで被覆栽培、段階的に改植

- 「やぶきた」を使って、てん茶向け被覆栽培・・・収益を確保
- 「やぶきた」から「つゆひかり」などの有機、てん茶向け品種へ転換



改植に合わせて有機栽培に転換

- 「つゆひかり」や「しずゆたか」へ改植後は、減農薬栽培で**初期生育を確保**
- 3年目から成園になるまでに有機対応の防除、施肥



【目的】

海外で高まる茶の需要に応じて静岡茶の輸出拡大を図るため、海外販路の拡大に取り組む事業者及び輸出に向け輸出生産拠点化に取り組む生産者等に対し、各事業を支援することで海外販路の拡大や輸出向け生産体制強化を図る。

【事業目標】

■農業産出額 1,877億円(2022年)⇒2,400億円(2026年)

■輸出茶園面積 2035年までに**800ha増加**

※輸出茶園面積とは、輸出に適した品種への改植面積及びてん茶生産に必要な被覆栽培面積をいう。

【事業の内容】

海外販路開拓支援事業

海外展示会への静岡茶ブース出展支援

10,000千円

- ・補助率:1/2以内
- ・上 限:10,000千円
- ・対 象:茶業関係団体等2者以上によるコンソーシアム



海外で開催される大規模展示会へ団体で出展し、商談成立を目指す

輸出拡大生産転換設備等導入事業

輸出向け生産構造転換のための機械等の整備支援

60,000千円

- 円
- ・補助率:1/2以内
- ・上 限:15,000千円
- ・対 象:輸出拠点化に取り組む生産者グループ等
- ・要 件:拠点化計画を作成した茶工場又は参画した生産者



簡易てん茶炉



茶園クリーナー

輸出拡大生産体制強化支援事業

品種転換等による輸出向け生産体制強化支援

150,000千円

- ・補助額:改植経費 :152千円/10a 以内
- 植栽初期管理費 :141千円/10a 以内
- 被覆資材費 :100千円/10a 以内
- ・対 象:輸出拠点化に取り組む生産者グループ等
- ・要 件:拠点化計画を作成した茶工場又は参画した生産者



「やぶきた」から有機茶・てん茶栽培に適した品種への改植の推進



てん茶栽培への転換

静岡茶統一ブランド推進事業 ～グローバルブランドへの道

現状と課題

<現状>

- 静岡茶の産地は8地域、17銘柄により構成
- 高品質のお茶は手揉製茶技術（8流派）が源流
- それぞれの産地で香味に特徴
- 中山間地の山のお茶、平坦地の深蒸し茶
- 多様なお茶があるのが強み
- 海外では日本茶産地は宇治と鹿児島
- 緑茶ペットドリンク主流で静岡が茶産地と知ら

<課題>

- 静岡茶は産地を示し、ブランドになっていない
- それぞれの産地の特徴があるが、分かりづらい
- 商品に「静岡茶」の表示がほとんどない
- 個別産地をアピールしても伝わらない
- 香味など特徴をイメージできない
- 海外のみならず国内でも知名度が低い

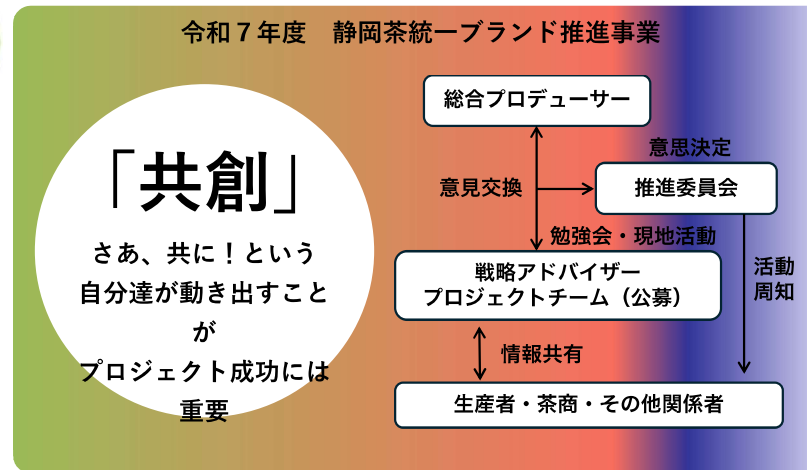
対応

令和6年度 静岡茶リブランディングプロジェクト

<インナーブランド・コンセプト>

「正真正銘」を茶都から世界へ。さあ、共に！
今すぐ100年後の未来のために、自ら変化を生み出す

お茶の世界的価値の再発見・再定義
静岡茶を日本発グローバルブランド



将来像

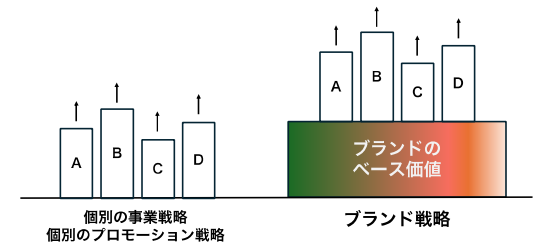
<茶業会議所を中心に業界がブランド運営>

「共創」、唯一無二の存在

世界に通用する静岡茶ブランド

GLOBAL BRAND

世界中どこから見ても一つのブランドに見えている



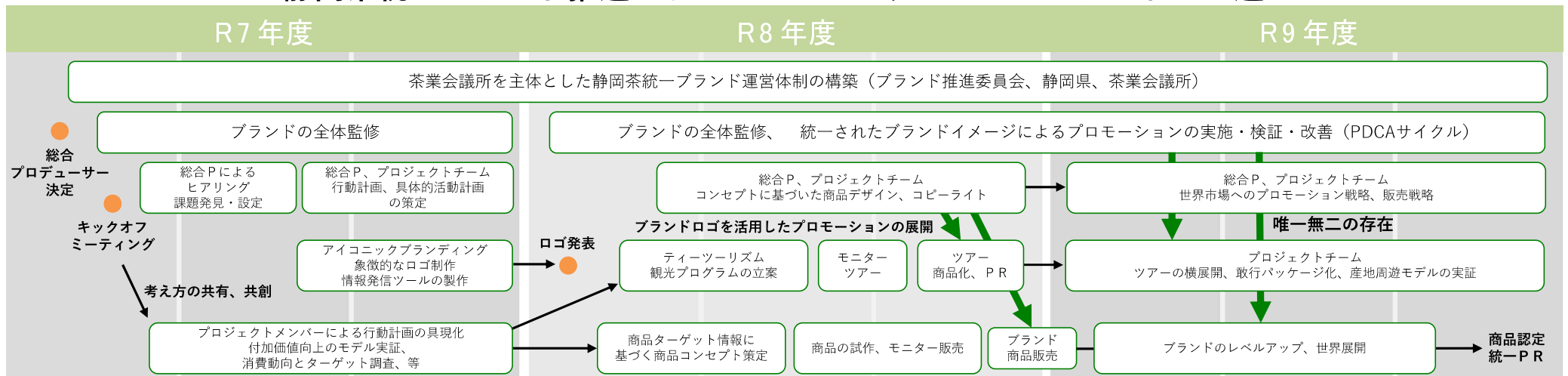
キープロダクト・アイコン

PRODUCT
商品

FLAGSHIP
情報発信

LOGO
ロゴ

静岡茶統一ブランド推進スケジュール ～グローバルブランドへの道～

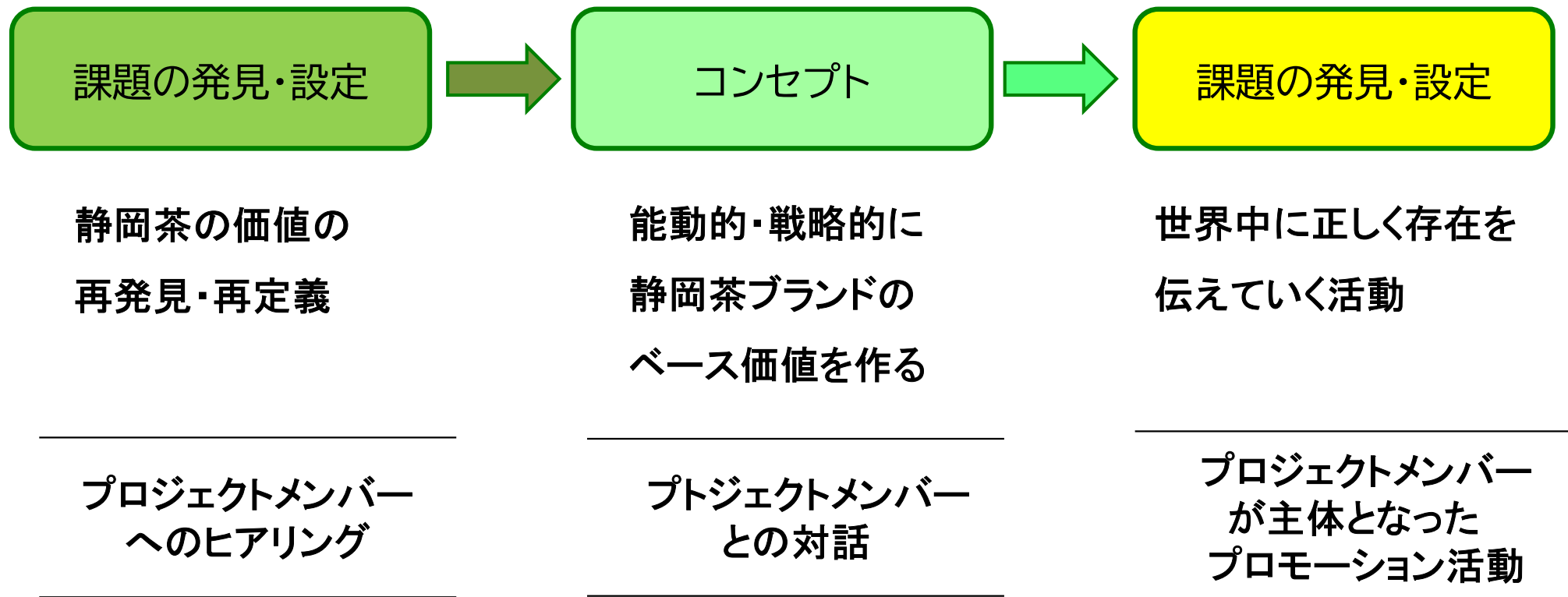


静岡茶統一ブランドの構築

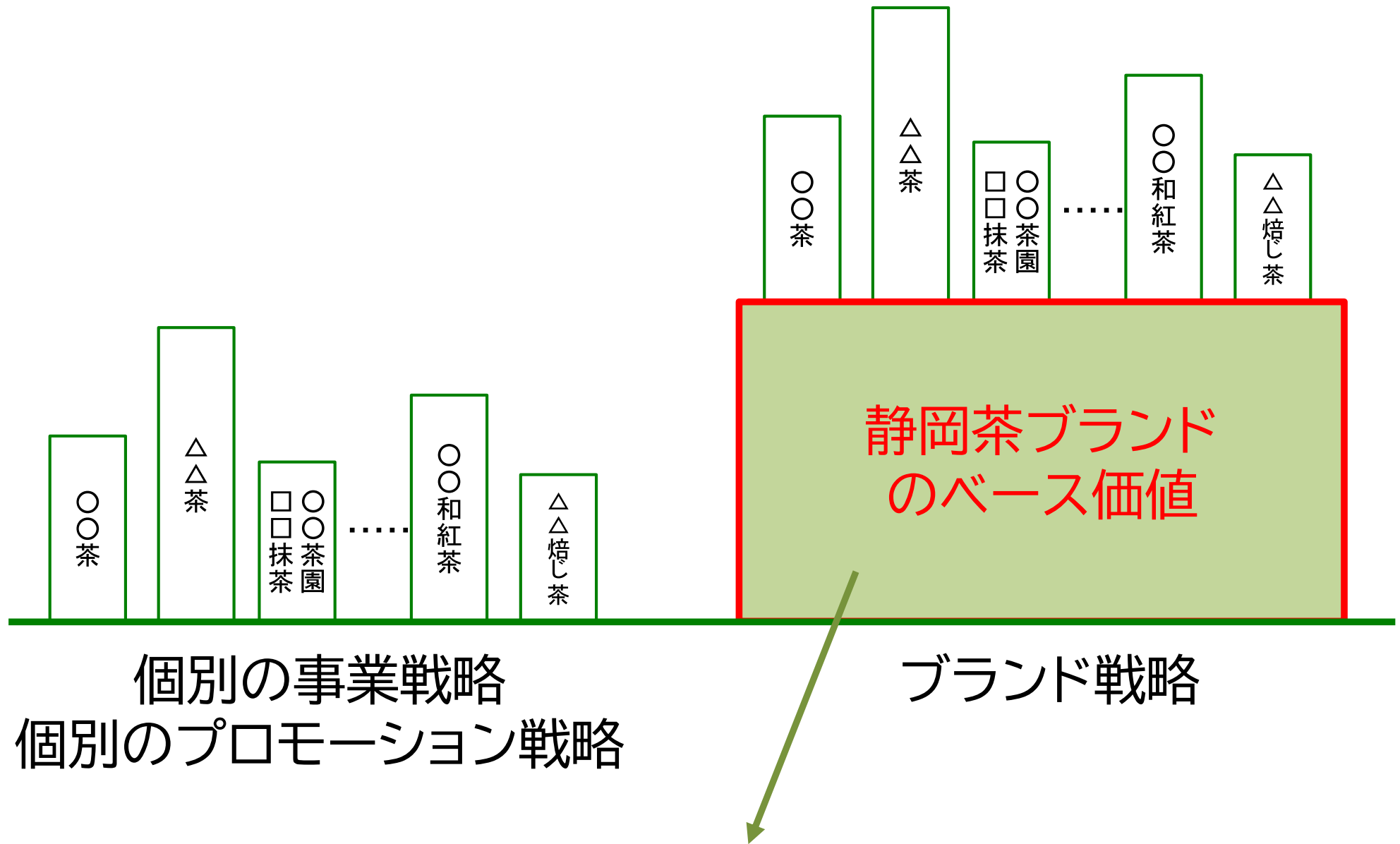
静岡県茶業の現状について、豊かな自然と長い歴史に育まれた職人技、高品質な茶葉、多様な産地、茶畑景観という潜在力を持ちながらも、その魅力が現代社会に十分に伝わっていない

<今年度以降>

<来年度以降>

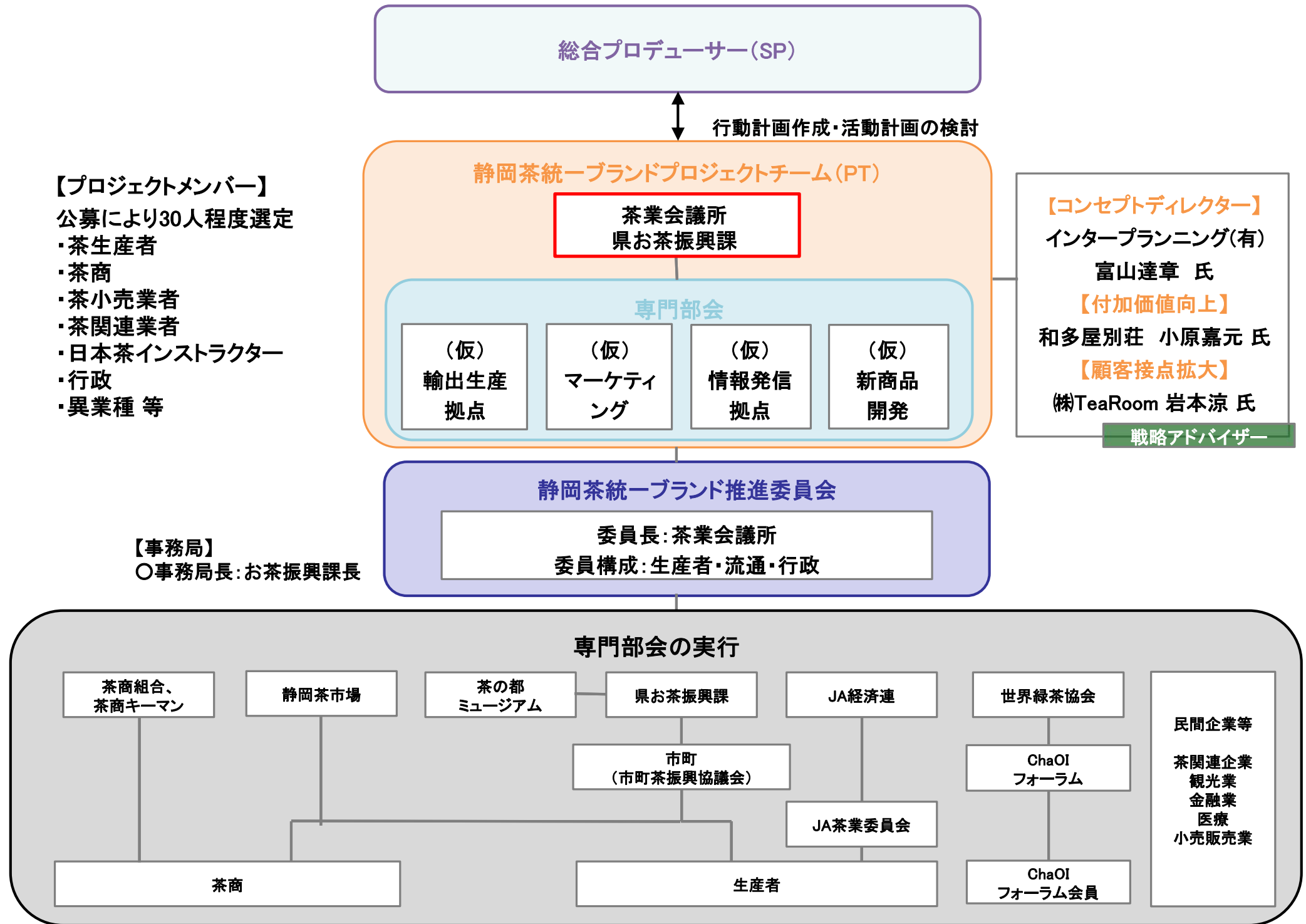


静岡茶統一ブランドと様々な県内ブランド



静岡茶に共通する価値を見いだす
「静岡茶」だと分かるシンプルなアイコン

R7静岡茶統一ブランド推進事業の推進体制



「やぶきた」の休眠特性

- ・金谷で「やぶきた」を用いて、秋～春の気温を5～9℃高く管理すると、沖縄県（冬季気温が8～10℃高い）で生じる**一番茶の生育不揃い、芽数の低下等が発生**
- ・「やぶきた」は、休眠覚醒に、**10℃以下の日数が6週間必要**

秋～春季の加温と一番茶の生育（やぶきた）

区	変動係数(%)		新芽数 (本)	新芽重 (g)	全窒素 (%)	カテキン類 (%)
	新芽重	新芽長				
露地	53	32	92	73.5	4.0	10.9
加温	125	59	25	21.9	3.3	11.8
有意差	—	—	**	**	**	ns

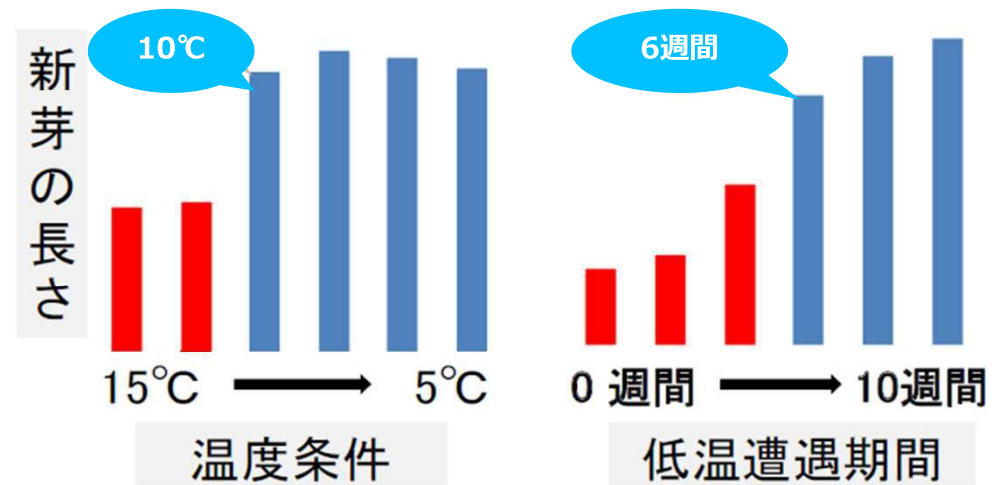
注) 20×20cm枠内調査結果、秋～春の平均気温は露地区10.7℃、加温区15.7℃、**は1%水準で有意差あり
※農研機構野菜茶業研究所研究成果情報(2005)



露地区



加温区



気温・低温と新芽の生育

茶産地の気象データ

- ・ **日平均気温10℃以下の日数**は、40年前と比べて**約30日減少**
(沖縄県は10℃以下の日数はほぼゼロ)
- ・ **静岡県**は、今後、気温が**2～4℃上昇**しても、「やぶきた」の休眠覚醒に必要な**10℃以下の日数は概ね6週間以上**と推定

日平均気温 6～10℃以下の日数

地域	1980年			2023年		
	6℃以下	8℃以下	10℃以下	6℃以下	8℃以下	10℃以下
川根本町	100	120	138	67	89	112
菊川	82	100	118	45	71	92
御前崎	55	78	100	18	39	67
鹿児島県枕崎	29	51	78	7	25	51
沖縄県奥	0	0	4	0	0	2

※過去の気象データ検索 (気象庁HP)